

平成 29 年の林業総合センターでは、こんなことがありました！

～重大ニュース～

平成 29 年 1 月から 12 月までの 1 年間を振り返り、
当センターで行ってきた主な活動の概要をお知らせします

○ 天然記念物「根羽村 月瀬の大杉」挿木に成功、二世誕生へ（3 月）

樹齢 1400 年ともいわれる月瀬の大杉。その後継樹の育成が課題となっていました。たまたま平成 24 年の雪害で枝折れが発生。その調査に参加した研究員の手により持ち帰られた枝から、挿し木に挑戦していたところ、9 本が 4 年を経て植栽可能な大きさになったことから、第一回大杉まつりに併せ苗木の返還式が行われました。



○ 育林部一丸となって育種採種園の苗木を救う（4-5 月）

構内に造成された育種カラマツ採種園に待望の一番苗 29 本が到着、管理する松本地域振興局職員により植栽されました。数年後、材質や強度特性を備えたカラマツからの種子供給が待たれます。とっていたら、折からの高温と寡雨、加えて虫害の発生やシカ食害の危機。育林部総出で行った献身的な散水や殺虫、仮設防護柵の設置により瀕死の苗木を死の淵から救い出すことができました。

○ ドローン活用のための取り組みをスタート（5月）

ドローンの可能性を探るための取り組みを開始、飯山市井出川の土砂災害現場では、現場到着後、3時間後には全域をカバーする立体写真の合成に成功、被災区域やその面積が把握できました。その一方で「飛ぶものは落ちる」という真理も確認できました。



このほか、松くい虫被害木の探査、皆伐地の伐根調査等でも成果が期待されています。

○ 国際ウッドフェア 2017に参加（5月）

5月25日、長野市ビックハットで開催された国際ウッドフェアの併催行事として、当センター研究成果発表会を行いました。林業関係者125名の方にご参加いただき、センターの取組全体の紹介に続き、日頃、職員が行っている研究内容等について発表しました。



○ 森林総合研究所の長期研修（6月～7月）で樹木抽出成分の分析技術を習得

つくば市にある森林総合研究所 樹木抽出成分研究室に特産部職員が派遣され、精油成分の分析技術を習得しました。材料に用いたコウヤマキに関する成果を日本木材学会大会（2018年3月京都）で発表する予定です。

○ 国際学会（7月：メキシコ）でマツタケ研究の成果を発表、[IWEMM10 の 2019 年諏訪市開催が決定](#)

IWEMM9（第9回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ）が2017年7月10日から14日まで、メキシコ・テスココ市で開催され、特産部研究員が「長野県におけるマツタケ栽培の試み」について口頭発表しました。また、第10回記念大会が2019年10月20日から25日まで、諏訪市で開催されることが決まりました。



○ CS 立体図、国際学会で発表（9月）

当所が開発した地形判読を容易にするCS立体図について、台湾で開催された国際シンポジウムで発表。海を越え、海外でも好評を博しました。既に林業のみならず、海洋、地理、歴史、観光等の分野でも活用されており、ますますの広がりが期待されています。

○ 第2回ハナイグチサミットを開催（10月）

第2回ハナイグチサミットを2017年10月26日から27日まで、北海道大学、北海道林産試験場、山梨県森林総合研究所、信州大学からも研究者を招き、辰野町（現地検討会）及び林業総合センター（講演会）で開催しました。林業総合センターでの研究成果や普及状況を特産部研究員が報告しました。



○ 接着重ね梁 C タイプについて、建築基準法第 37 条の規定に基づく国土交通大臣認定のための性能評価審査開始

当センターで開発した、接着重ね梁 C タイプについて、建築基準法第 37 条の規定に基づく国土交通大臣認定のため、指定性能評価機関（日本建築センター）の性能評価審査が開始されました。大径材の梁・桁材への利用促進が期待されます。



○ 木材試験施設の建設工事（地方創生拠点整備交付金事業）開始

10 齢級を超え、大径材化した県内人工林の利用開発のため、これまで行うことが出来なかった、長期性能試験や湿潤環境での接着耐久性試験などの性能評価試験に対応するための施設整備を開始しました。本年度中には整備が完了する予定です。

